

農作物の生育状況と今後の見通し

作物名		生育状況等	今後の見通しと対策
作物	水稲	<ul style="list-style-type: none"> <li>育苗は全般に順調に進んでいる。苗丈は長く葉色がやや濃く、苗の充実はやや劣り、苗の葉齢は平年並である。</li> <li>ほ場管理は順調に進んでおり、早期では4月下旬から田植が始まっている(日野郡、八頭郡、倉吉市、大山町など)。</li> <li>全般に、育苗や田植後の稲の生育は順調で、目立った障害は報告されていない。</li> <li>用水不足は、現時点で報告されていない。</li> </ul>	育苗や、田植前後の栽培管理について技術情報を通じて、主に関係機関に周知している。
	麦	<ul style="list-style-type: none"> <li>穂揃期以降、遅穂の発生により穂数は増加した。</li> <li>一部のほ場で部分的に倒伏が見られるが、その状態は軽微である。</li> <li>出穂期以降の遅穂発生により、出穂期から穂揃期までの期間が1週間程度と長く、収穫期の判断が困難になることが懸念される。</li> <li>出穂・受粉時期の低温による不稔は軽微であり、目立った病害は報告されていない。</li> </ul>	適期収穫などについて麦作技術情報を通じて主に関係機関に周知している。
果樹	ナシ	<ul style="list-style-type: none"> <li>二十世紀の平均的な交配日は4月16日(平年:4月15日)で平年より1日遅く、昨年より6日遅かった。</li> <li>5月14日の作況調査では、ほぼ平年並みの生育となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3月31日、4月27日のアラレにより、一部果実に傷が見られるが、摘果により品質確保ができる見込み。</li> <li>ジョイント苗等の苗木には、かん水を実施する。</li> </ul>
	カキ	<ul style="list-style-type: none"> <li>各品種ともに、発芽は平年より早かったが、展葉初めは平年並み～やや遅かった。着蕾数は平年並み～やや多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>富有の開花は平年並みのお24日頃からと見込まれる。</li> <li>摘蕾、摘花作業を計画的に実施する。</li> <li>輝太郎の苗木には、かん水を実施する。</li> </ul>
	ブドウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>デラウェアの後期ジベ処理、巨峰・ピオーネのジベ処理時期となっており、平年並で前年より遅い生育となっている。</li> <li>病害虫や気象災害等大きな問題は発生していない。</li> </ul>	平年並みで前年より遅い生育が予想される。
野菜	白ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> <li>【春ねぎ】一本ねぎは収穫終盤。抽台し始めたが当初の予想より少なく大きな問題はない。連休明けから坊主不知の出荷が始まっているが、昨年の長雨の影響で分けつが少なく、太が良いものの一部で抽台が見られる。</li> <li>【夏ねぎ】概ね順調に生育しているが、中山間部では4月初旬の積雪・降霜で生育が7～10日程度遅れている。弓浜地区のトンネル作型は春季の低温のため、早出し出荷の予定が5/25から6月にずれ込む見込み。</li> <li>【秋冬ねぎ】順次、定植中だが、中山間部では3月の天候不順でほ場準備が遅れ、定植が例年より7～10日遅れている。定植後の生育は概ね順調。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5/6以降は降雨がなく乾燥が続いているため、定植後にかん水し活着を促す。</li> <li>高温乾燥でネギアザミウマ、ネギハモグリバエの増加が懸念されるが、降雨がなく粒剤の効果が劣るため液剤も活用して初期防除の徹底を図る。</li> <li>標高の高い山間部では5月末頃から小菌核病の発生が懸念されるため、予防、初発防除を徹底する。</li> <li>梅雨入りまでに明渠設置などの排水対策を確実に実施する。</li> </ul>
	ブロッコリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>【初夏どり】(東伯地区)定植は4月下旬で終了。乾燥により生育が停滞しており、例年より10日程度遅れている。べたがけ栽培で5月19日ごろより、露地で23日ごろより出荷予定。</li> <li>(大山地区)定植後の低温の影響で生育は例年より10日程度遅れ、出荷は昨年より2日遅い4月27日から始まっている。また、定植後の低温の影響で、ボトニング(早期着蕾)傾向であり、特に無被覆栽培は茎が細く花蕾重が少ない仕上がりととなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月以降は高温・乾燥が続いており、かん水を行い生育を促進する。</li> <li>コナガ、アブラムシの防除を徹底する。</li> </ul>
	すいか	<ul style="list-style-type: none"> <li>【ハウス栽培】4/15頃から本格的に交配が始まったが、4/20～24の着果が悪く、交配後の4/23～5/1まで日照不足、低温が継続した影響と見られる。4/28頃まで着果が不安定であったが、それ以降は概ね良好。しかし、この期間の交配は1果着果も多く見られ、着果数は例年に比べやや少ないとみられる。果実肥大は極端な小玉傾向であった昨年よりは良好だが、例年よりもやや小ぶり傾向。</li> <li>【トンネル栽培】大栄地区で4/26、倉吉地区で4/30から交配が始まり、5/3頃からは本格的に始まっているが、平年に比べ5日、倉吉地区で2日程度遅い。4月下旬の日照不足、低温の影響で5/10頃の雄花、花粉の状態が悪かったが着果は比較的安定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>降雨が少ないため、トンネル栽培もかん水を実施し果実肥大を促す。ハウス栽培のかん水は無理な早期切り上げは避け、収穫2週間前までは実施し、草勢維持につとめる。</li> <li>最低気温15℃を目安にハウス、トンネルは夜間開放し、呼吸消費を抑える。</li> <li>気温が高まるため病害虫の発生に注意し、防除を徹底する。</li> </ul>
	らっきょう	5/10の生育調査では、福部地区、北栄地区とも㎡当たり球重は例年の130%程度で豊作飲み込み。株当たり分球数は平年より少ないため、大玉傾向とみられる。	福部地区は5月20日、北栄地区は5月17日の初出荷が予定されている。
	アスパラガス	3月末から4月始めの低温の影響で露地栽培の春芽法が遅れ、出荷が4月下旬からとなり例年より1週間程度遅れた。さらに、4月末の低温の影響で萌芽数が伸びず、気温が上昇してきた5/3頃からは出荷ピークとなった。このため、春芽収量は昨年の7～8割程度となっている。立茎はハウス栽培で4月中旬、露地栽培で5月中旬から始まっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>立茎中は茎枯病、ジュウシホシクビナガハムシの防除を徹底する。</li> <li>乾燥が続く場合はかん水し萌芽を促す。</li> </ul>
	にんじん	<ul style="list-style-type: none"> <li>【春にんじん】一部で2月下旬の播種後の低温により生育がやや遅れ気味のほ場もあるものの、全体的には例年と同等の生育で概ね順調。</li> </ul>	例年と同様に6月10日前後からの出荷開始となる見込み。
	花き	リンドウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>【智頭町】草丈は40～70cm程度と、生育の早かった昨年より生育は遅く、例年並み。5月上中旬の日中の高温により、萎れが見られる。</li> <li>【三朝町】大谷:生育の良いもので草丈40～60cm、展開葉枚数12～14対。茎数は5本程度。鎌田:生育の良いもので草丈30cm、展開葉枚数13枚、茎数3本程度。早生系統は40cm程度で着蕾が見られる。除草剤による葉害あり。</li> </ul>
シンテッポウユリ		<ul style="list-style-type: none"> <li>【東部地区】智頭町では4月20日頃～5月2日にかけて定植した(例年並み)。定植時に本葉3枚程度の農家は定植後約2週間経過しているが、葉枚数は4枚程度でやや遅れている。マルチ栽培も実施している。</li> <li>八頭町では4月下旬から5月上旬に定植した。農家により生育差が見られ、葉数は4～5枚で、やや遅れている農家もある。</li> <li>鳥取市での定植は5月5日までに終了。乾燥が続くため、活着まで積極的に灌水が行われた。</li> <li>本葉5～6枚程度で、生育は概ね順調。なお、定植後20日程度経過して4～5枚とやや生育遅れのほ場もある。</li> <li>【中部地区】(露地作型)倉吉市で4月に定植した苗は活着し、本葉5～6枚。チェーンポットで定植したほ場は昨年よりやや遅れている。病害虫は見られない。</li> <li>地床育苗のものはGW後から順次定植中。やや大苗と定植しており、本葉5枚程度。</li> <li>北栄町では4月25日頃定植(2戸)。活着しているが、やや生育不良。</li> <li>(ハウス抑制作型)ハウス秋出し2戸がチェーンポット育苗中(北栄町)。</li> <li>ハウス秋冬出し7戸がチェーンポット育苗中。4月13～22日頃種子冷蔵出庫。4月下旬から順次発芽。5月10日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月下旬の低温により、露地作型は全体に生育がやや遅れているが、5月6日以降、好天に恵まれており、問題なく回復する見込み。適期適量の灌水を実施する。</li> <li>葉枯病防除を徹底する。梅雨期までは銅剤と固着性展着剤を活用する。今後、ユリクビナガハムシの発生も予想されるため、適宜防除を実施する。</li> <li>生育遅れのほ場は追肥を実施すると共に、積極的にかん水する。</li> </ul>
トルコギキョウ		<ul style="list-style-type: none"> <li>【八頭町】盆前出荷用に3戸が3月中旬に播種。1戸は発芽不良が多発。4月下旬には1戸が定植し、5月上旬時点で欠株は見られない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定植後のかん水を十分に実施し、活着を促す。</li> <li>ヨトウ虫類の発生に注意し、適宜防除を実施する。</li> </ul>
アスター		<ul style="list-style-type: none"> <li>【智頭町】アレンジメントアスターを現在育苗中。発芽率は品種により異なり、50～70%程度。</li> </ul>	
キク		<ul style="list-style-type: none"> <li>【倉吉市】露地小ギク(盆出荷用)は4月下旬に定植し、摘芯済み。生育は順調。</li> </ul>	定期的な病害虫防除を実施する。
畜産		飼料用トウモロコシ	<ul style="list-style-type: none"> <li>播種作業は4月下旬から始まっている。</li> <li>天候が良好であり、順調に作業が進んでいる。</li> </ul>
	イタリアンライグラス等	<ul style="list-style-type: none"> <li>1番草の収穫は4月下旬から収穫が始まっている。</li> <li>天候が良好であり、順調に作業が進んでいる。</li> <li>一部標高の高い地域を除き生育は平年並みであり、収量は平年並みの見込みである。</li> </ul>	1番草について、収穫が5月下旬頃まで順次行われる見込みである。
その他	農作業安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年5月9日広島地方気象台発表の中国地方1か月予報によると、5月11日から6月10日の期間は暖かい空気に覆われ、気温は高いと予想されている。</li> <li>令和元年5月13日に「高温に関する異常天候早期警戒情報(中国地方)」が発表され、中国地方では5月18日頃からの1週間は、気温が平年よりかなり高くなる確率が30%以上と見込まれている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>春先は身体が暑さに慣れていないため、農作業中の熱中症には注意する。</li> <li>体調が悪い時には、農作業を行わないようにする。</li> <li>熱中症警報などの情報をもとに作業を計画する。</li> <li>正午前後の気温の高い時間帯を避けて、作業を行う。</li> <li>農作業中は20分ごとに休憩をとり、コップ1杯の水分を補給する。また、水分と合わせて塩分の補給も行う。</li> <li>農作業の前後にも水分の補給をする。</li> <li>特に農業用ハウス内での作業には注意が必要。</li> </ul>